**貴族のカクテル**

　初期シナリオ　貴族とマスター

概要　貴族が作ったカクテルのレシピをマスター（あるいは商人）に訂正させる。

ハンドアウト　依頼主：貴族

はやりのカクテルを自分だけで作ろうとしたが、おいしく作れない。どうやらレシピに誤りがあるようだ。自分が直接聞きに行くのは悔しいので、代わりに聞きに行ってほしい。

**初期証拠カード　「自作レシピ」**

　これをもとに

マスター　「このカクテルは自作しにくいだろう。特別な材料がいるからね。はい、これが正しいレシピだ。意地っ張りな貴族様に持ってってやるといい。」

　　**証拠カード　「プロのレシピと材料」を渡してください。**

**初期証拠カード　「自作レシピ」をもとに**

商人　「ふうん。そのカクテルなら私も聞いたことがある。この珍しい果物を貴族様に持っていくといい。後は自分でやるだろう。しかし、なぜバーのマスターに聞かなかったんだい？」

　　**証拠カード　「足りなかった材料」を渡してください。**

貴族　「依頼の通りだ、よろしく頼む。」

その他　「バーのマスターに聞きに言ったら？

　**「プロのレシピと材料」をもとに**

貴族　なるほど、これが正しいレシピか。ありがとう。

その他　貴族様の所に行って確かめるといい。

　**「足りなかった材料」をもとに**

貴族　なるほど、足りなかったのはこれか。ありがとう、自分で試してみるよ。

その他　貴族様の所に行って確かめるといい。

**いずれの場合も、真相カード　「流行のカクテル」を渡してください。**